

# 「絆 ～きずな～」

校長 小林 大介



「絆」は2011年の「今年の漢字」（日本漢字能力検定協会がその年をイメージする漢字を公募し、最も応募数が多かったものを今年の漢字として12月12日の漢字の日に、京都清水寺で発表するもの）に選ばれました。その年の3月11日に起きた東日本大震災からの復興の合言葉として、あらゆる方面で使われ、日本人の心に刻まれる漢字の一つとなりました。

今年2021年は震災から10年の節目となり、この絆という文字を見る機会が多くなりました。ただ、よく考えてみると、この震災以前に絆という文字をそれほど多く見た記憶がなく、私が思いつくのは、せいぜい絆創膏（ばんそうこう）くらいだったと思います。気になって絆という字を調べてみると、本来の意味が自分の知っているものと違うことに驚かされました。

絆（ほだし）と読むと、

①馬の足などをつなぐこと。馬の足になわをからませて歩けないようにすること。②自由に歩けないように人の手足にかける鎖や杻（わく）など。手かせ、足かせ。③人の心や行動の自由を束縛すること。人情にひかれて、自由に行動することの障害となること。

絆（き）ずなと読むと、

①人と人との断つことのできないつながり。離れがたい結びつき。②馬などの動物をつないでおく綱。

と、なっています。（コトバンクより）どちらが語源なのかわかりませんが、自分の意思とは関係なく、強くつながることを意味する言葉であることが分かりました。言葉は時代によって変化していくものです。『人と人との心のつながり』としての絆を、これからも大切にしていきたいと思いました。

この絆という言葉を使い浮かべたとき、人と人との結びつきには2つのものが必要であると感じました。それは「同じ時間」と「同じ場所」の共有です。同じ場所に一緒にいる時間が長かったり、濃かったりすると絆はより深まるのではないのでしょうか。関係が深くない人とも、一緒にいる時間が長ければ、自然と絆は生まれてくるものだと思います。現在のこの環境下で、私たち教職員の会議等についてもリモートが多く、顔を合わせることが少なくなりました。ただ、たまに会うとやはりうれしいものです。教師同士の絆がそこにあるからだと思います。

学校で生徒たちは、毎日同じ場所で同じ時間を一緒に過ごしています。まさに「絆」を深めている真最中です。まだまだ不自由な生活が続いています。例年通りの活動ができないものもあります。それでも生徒たちは確実に成長しています。同じ時間、同じ場所で生徒たちの成長を一緒に感じる事が、教師にとっての喜びであり、学校の「絆」なのです。